

溶けた金属を結晶化させずに、固体の帯にするアモルファス（非晶質）作成装置（新素材応用研究室）。耐腐食性や磁気特性に優れた金属の開発などの研究に役立てられる

1995 県政ホットナウ

科学技術の急速な発展に伴い、産業構造の多様化が進む中で、民間企業は市場競争力のある商品開発を迫られています。こうした状況から、大学などの高等教育機関に対し、蓄積された科学技術や研究成果の地元への還元が期待されてきました。

この現状を受け、高等教育機関と民

地域の期待担い 岩手県南技術研究センターオープン！

間企業が共に手を取り合い、地域の特性を生かしながら研究開発を進める機関「岩手県南技術研究センター」が、6月1日、一関市に開所しました。

県と一関市が整備したこのセンターは、一関工業高等専門学校の支援を受け、情報処理や環境に配慮した製造技術、新素材開発に関する研究や、企業

への技術指導を行います。

この民間企業・高等教育機関・行政機関が一体となった取り組みは、他に例を見ない新方式として全国から注目を浴びています。今後、両磐地域の企業の研究力や技術力が向上し、地域産業の活性化が図られるものと期待されています。

〔問い合わせ先〕

岩手県南技術研究センター

運営主体：財団法人岩手県南技術研究センター

（両磐地域の市町村と地元企業で設立）

住所：一関市萩荘字高梨南方 114-1

電話番号：0191-24-4688

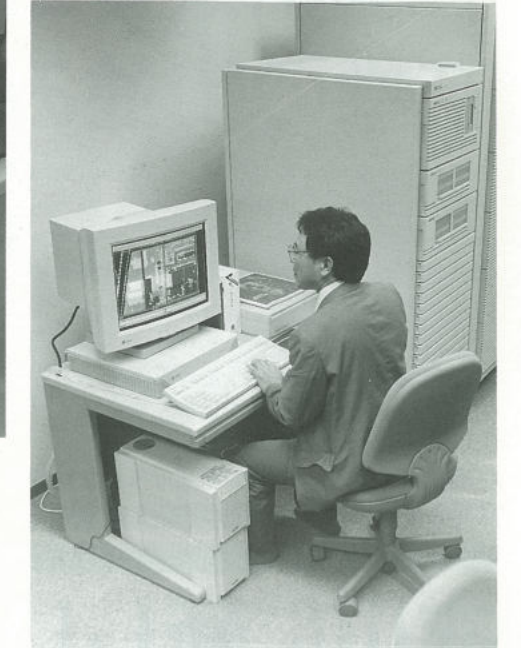
F A X：0191-24-4689

←一関高専の南側に隣接する岩手県南技術研究センター

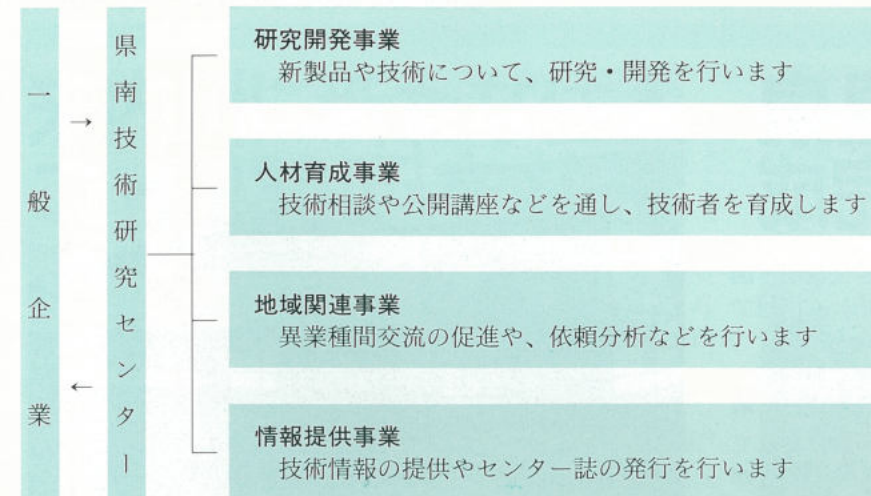


◀技術情報室では、画像や音声、文字などの情報を、コンピュータを使い加工する

▼リモートセンシング画像解析室では、衛星画像を用いて植生や地質、地形などの分析ができる



▲パソコン室では、ワープロなどの体験教室も行われる



▲結晶制御・育成装置（新素材応用研究室）。さまざまな金属の単結晶を作り、その物質の基本的性質を調べるのに役立てられる



各種分析機器が設置されている環境機能応用研究室では、環境に優しい技術の開発を進める